

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月17日

協議会名: 小樽市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北海道中央バス株式会社	<p>○小樽ベイビュータウン線 小樽駅前～朝里町～ベイビュータウン 運行回数:121.0回</p> <p>○山手中通線 小樽駅前～入船公園～小樽駅前 (循環線) 運行回数:726.0回</p> <p>○新光・ばるて築港線 済生会小樽病院～ばるて築港～小樽 自動車学校前 運行回数:1,334.0回</p> <p>○おたる水族館線 小樽運河ターミナル～小樽駅前～お たる水族館 運行回数:3,125.5回</p> <p>○銭函・桂岡線① 銭函浄水場～銭函駅前 運行回数:2,769.0回</p> <p>○銭函・桂岡線② 銭函浄水場～銭函駅前～銭函パーク ゴルフ場 運行回数:964.0回</p> <p>○小樽・桂岡線 小樽駅前～小樽築港駅前～桂岡中 央公園 運行回数:1,083.0回</p>	なし	B 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による外出自粛や観光客の減少により、バス利用者が大幅に減少したため、計画どおりの運行実績とならなかった。	C 計画申請時の目標を住民1人当たりの年間利用回数80回以上としていたが、58.62回となった。 (R3の年間輸送人員6,495,965人/人口(R3.9月末の総人口110,807人) 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、観光客の減少や市民の自控え等、交通需要が大きく減少したことが考えられる。	利用者の増に向けて、利便性の強化を図るとともに、利用促進策を実施していく。また、引き続き車内の消毒や換気等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、利用者に安心して利用してもらえるよう努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月17日

協議会名:	小樽市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>小樽市の交通は鉄道、路線バス、タクシーで構成されており、市内を東西に走る鉄道が幹線の役割を果たし、さらに市内にくまなく張りめぐらされたバス路線網とこれを補完するタクシーが、地域内における移動手段として、それぞれ、通勤・通学・通院・買い物等の住民生活において、重要な役割を果たしている。</p> <p>しかしながら市内の路線バスは、人口減少、自家用車の普及により年々利用者が減少、収支が悪化し、維持が困難な状況となっている。このため、地域内フィーダー系統確保維持計画を策定し、地域住民の移動手段を確保する。</p>